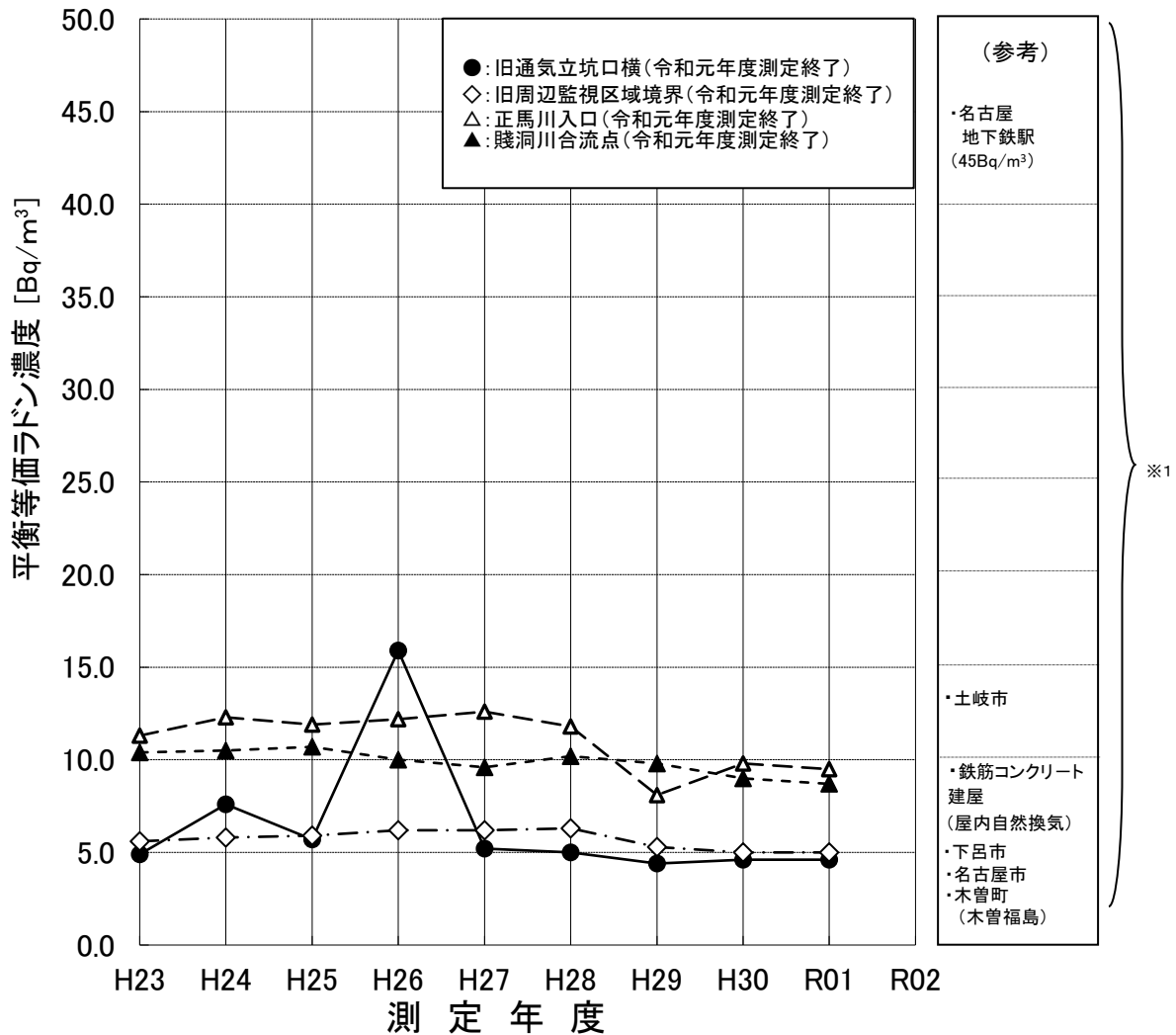


鉦山周辺のラドン濃度



※1: 国内各所の空气中的のラドン濃度の測定値範囲
下 道國(名古屋大学),「続 大気中のラドン族と環境放射能」 P191-199(1990)

東濃鉦山では、鉦山とその周辺の空气中的の平衡等価ラドン濃度を定期的に測定していましたが、東濃鉦山の閉山措置の進捗に伴い、令和元年度をもって終了しました。結果については、平成26年度第2四半期以外は、文献にある都市等の濃度と比較して同程度です。

平成26年度第2四半期は、東濃鉦山坑道埋戻し作業のため、坑内換気用の通気立坑主要扇風機を停止しました。主要扇風機の停止により、通気立坑からの排気量が少なくなったため、排気中のラドン濃度が高くなった可能性が考えられます。その後、通気立坑は第3四半期間の10月にコンクリートにて充填し坑口を閉そくしたため、通常の濃度となっています。

なお、平成26年度第2四半期においても、旧周辺監視区域境界でのラドン濃度の変化は見られないことから、周辺環境への影響はないものと考えられます。

平成26年度の「通気立坑口」平衡等価ラドン濃度測定結果(単位: Bq/m³)

第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
4.2	45.6	8.1	5.5

【参考】

当該測定地点直近の「旧周辺監視区域境界」における平衡等価ラドン濃度測定結果は法令値である、20Bq/m³は十分に満足している。

平成26年度の「旧周辺監視区域境界」平衡等価ラドン濃度測定結果(単位: Bq/m³)

第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
4.7	6.8	6.6	6.7